

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センターありたま担当圏域レベル） 開催報告書	
1 開催日時	令和 7 年 2 月 27 日（木） 14 時 00 分 ～ 16 時 00 分
2 開催場所	東行政センター 3階 31・32会議室
3 参加者	17名（委員 8名、関係機関 7名、事務局 3名）
4 協議の内容	1. 開会 2. 前回の振り返り 配布資料に基づき、生活支援コーディネーターより前回までの振り返りを行った。 3. 情報提供 (1)Googleマイマップ、JSTATMAPの追加情報の詳細について (2)積志ちょっとおてつだいの利用者状況について 配布資料に基づき、コミュニティソーシャルワーカーより情報提供を行った。 【主な意見・質問等】 特になし。 4. 協議事項・テーマ (1)地図や家事支援利用者状況から見える地域の状況や実態について ①情報提供を踏まえて感じたこと、気づいたこと ②情報提供を踏まえた地域のニーズや、今後求められる取り組み 情報提供や地図を踏まえ、2つのグループに分かれて協議を行った。 【主な意見・質問等】 〈移動スーパーについて〉 ・公会堂に移動スーパーが来ているが固定客が多く、10人利用があるかないくらいである。この人数で継続して来てくれるのか心配になる時がある。そのあたり事業者の考えを聞いてみたい。 ・移動スーパーを利用している人を見ると、夫婦世帯など必ずしも高齢者単身世帯ではないが、足腰が弱く移動に難しさを抱えている方が多いように感じる。 ・サロンのある日に移動スーパーに来てもらっている事例を聞いたが、有効ではないかと感じた。 ・公会堂は各町にあるものの地域住民はあまり利用する機会がないのではないかと感じる。 ・移動スーパーの利用者はやはり移動が難しい人が利用すると思われるため、近所に来ていても自宅からの距離によっては買い物に来るのが難しい人もいるように思われる。 ・生活支援の取り組みが始まった時は、買い物先が近くに無いことで困っていた人が多数いた。しかし、最近は生協や移動スーパーの利用者が増加していると感じる。 〈利用者実績について〉 ・ゴミ出しや掃除・片付けなどのメニュー、地形や立地などを問わず、足腰が弱くなった理由で依頼する人が多いように感じる。 ・草取りなどは、近隣住民が依頼し、それを見た人が頼んでくるケースも多いように感じる。 ・利用者数が少ないところは認知度が影響しているように感じる。実際、地区社協だよりを定期的に回覧していても、最近になって初めて見たという人もいた。 ・家事支援の利用者数が少ない地域への周知方法を検討することも大切ではないかと思われる。 ・現在の利用実績を見ても、総人口や高齢者人口から見ると依頼件数は少ないように感じる。 ・家事支援を依頼することに恥ずかしさを感じ、知っていても利用しない方がいるように思われる。 ・依頼を躊躇する支援内容としては、家の中に入るものが考えられる。 ・近所の人がボランティアに入るのであれば、恥ずかしさは多少減るように思われる。 ・買い物支援では、水や米など重たい荷物を運ぶことを依頼されることが多い。 ・家事支援の活動を通して、有玉台2丁目や半田団地に高齢者単身世帯が多いと感じる。

- ・有玉北町や大瀬町は農家が多く、自立心が強いので自分で草取りができているのではないかと感じる。
- ・有玉西町に家事支援利用者がいない理由の一つとして、自治会の組織体制が整っていることが挙げられる。
- ・家事支援は、病気やけがをきっかけに利用を始める人が多いが、けがが治っても継続する人がほとんどである。
- ・家事支援の依頼は、利用者の口コミで増加していると感じる。
- ・半田団地のみで活動をしているボランティア組織があり、そこで受けられない依頼が地区社協に回っていると思われる。
- ・草取りや木の伐採など、派遣人数が多い理由は、敷地が広いためである。数人で効率的に実施している。

〈その他〉

- ・ゴミ出しは、早朝で出す時間も限られており、ヘルパー事業所では対応できないため、地区社協への依頼が増え、公的ヘルパーには掃除や買い物に依頼するという棲み分けができた。
- ・上記のような公的ヘルパーの状況を考えると、ゴミ出しの時間を夜から可能にしたり、ゴミの集積所を近くにするなど、自治会で検討していく必要があると感じる。自治会や地区社協の組織内で相談するとよいのではないかと感じる。

(2) 本日の振り返りと次年度の協議について

① 本日の協議で印象に残ったこと、感じたこと

② 次年度協議を深めたいこと

協議テーマ①とは異なる構成員のグループで協議を行った。

【主な意見・質問等】

- ・今年度はマップや家事支援利用者実績などのデータが出てきたため、これらを踏まえて何に取り組むべきか、協議を深めていくことが大切ではないかと思われる。
- ・マップや家事支援利用者実績などは地区社協に関わる情報であるため、特に生活支援を充実させるにはどのような取り組みが必要か協議を深めていくことが大切ではないかと思われる。
- ・生活支援を含め地域の活動を考えていくにあたっては、担い手の課題について協議を深めていくことが大切ではないかと思われる。
- ・今回の家事支援に限らず地区社協などの地域活動の周知をどう徹底していくか協議を深めていくことが大切ではないかと思われる。なお、家事支援の周知にあたっては地図や利用者実績を踏まえどこに重点的にアプローチしていくか協議を深めていくことが大切ではないかと思われる。
- ・地域福祉について考えていくと、高齢者以外にも目を向けることも重要だと思われるが、当事業の趣旨を踏まえると協議体で何を協議すべきかテーマ設定が難しいと感じる。
- ・地域住民だからできること、行政だからできることなど役割分担を意識することが大切ではないかと思われる。
- ・半田団地のボランティア組織のように町ごとのボランティア組織が必要だと感じる。
- ・今後、高齢化が進んでヘルパーの需要が高まると、地区社協への依頼が増える可能性がある。介護業界の人手不足も深刻な課題である。
- ・地区社協のジャンパーを着て活動すると告知につながるため必要だと感じる。
- ・日ごろから助けあいの体制を作っておくと、災害の時に役立つのではないかと感じる。
- ・若い世代との関わりが少なくなり、若い世代も地域に関わろうとすることがないと思われるため、住民同士で交流する機会がなくなっていると感じる。隣近所や町単位で顔がつながる関係性を作るなどの取り組みが必要だと感じる。
- ・積志地区は広く、町ごとに実態が異なると思われる。来年度の協議体は各町の自治会長に出席してもらい、町ごとの状況を聞いてみることで協議をする上で有効だと感じる。

5. その他

(1) 生活支援体制づくり協議体委員報酬の支払いについて

生活支援コーディネーターより、協議体委員報酬の支払い時期について周知した。

(2) 次年度の協議体について

生活支援コーディネーターより、協議体委員の任期について説明を行い、次年度第1回の日程を確認した。

【協議結果】

日時：令和7年7月23日(水)13時30分から15時30分まで

場所：積志協働センター 301講座室

6. 閉会：高井副会長

5 今後の見通し・ 必要な対応

今回は、「Googleマイマップ、jSTATMAPの追加情報の詳細について」や「積志ちょっとおてつだいの利用者状況について」という市社協からの情報提供を踏まえ、地域のニーズや今後求められる取り組みについて協議を深めることができた。

今年度を通しては、GoogleマイマップやjSTATMAP、家事支援利用者の分析を通して、地域の実態をより明らかにすることができた。また、協議の中で町ごとに地域の実態が異なるのではないかと
いう意見も挙げられたため、次年度は町ごとの地域の実態や状況に着目して協議を深めていきたい。